

事故データ・事例集

平成 30 年 6 月



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

目 次

はじめに	1
I. 傷病状況	
1. 平成29年度 日帰り利用における傷病件数	4
(1) 活動別傷病件数	
(2) 傷病内容詳細	
2. 平成29年度 宿泊利用における傷病件数	5
(1) 活動別傷病件数	
(2) 傷病内容詳細	
3. 平成25年度～平成29年度の活動別傷病件数	6
(1) 活動別傷病件数	
4. 施設（屋内）における傷病状況	
(1) 活動別傷病件数	7
(2) 外科系・内科系傷病内容の比較	8
(3) 傷病別件数	10
5. 施設（屋外）における傷病状況	
(1) 活動別傷病件数	16
(2) 外科系・内科系傷病内容の比較	17
(3) 傷病別件数	19

Ⅱ．事例紹介 【対象年度：平成28年度～平成29年度】

1．屋内活動での事故

■綱引き中の転倒による脳震盪	26
■ベッドからの転落による骨折	27
■リンゴによるアナフィラキシーショック	28
■ベッドからの転落による打撲	29
■痙攣の発症	30
■移動中の転倒による骨折	31
■宿泊室（窓）からの転落による骨折	32

2．屋外活動での事故

■ベンチへの衝突による打撲	34
■スキー中の転倒による骨折	35
■虫刺され（地蜂）	36
■宿泊棟窓下の側溝に落ちて挫創	37
■他者との接触・転倒による剥離骨折と靱帯損傷	38
■手足口病の発症	39
■ナタの誤使用による裂傷	40
■危険物への衝突による裂傷	41
■浴室屋上からの転落による擦過傷	42
■虫刺され（ダニ）	43

Ⅲ．資料

1．平成29年度 傷病発生状況一覧表

（1）日帰り利用 傷病一覧	46
（2）宿泊利用 傷病一覧	47

はじめに

国立青少年教育振興機構は、「体験活動を通じた青少年の自立」を目指して、全国 28 の青少年教育施設において、それぞれの立地条件を活かした特色のある活動を展開し、生きる力の育成に必要な自然体験活動、集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の機会の提供に努めています。

青少年教育施設においては、青少年の自然体験等の体験活動を意図的・計画的に実行し、安全に配慮したプログラムを企画・実施することにより、体験活動の機会をより多くの青少年に提供することが求められているところですが、例年、体験活動中の事故や傷病等が発生しています。

そこで、事故等の再発防止に寄与するため、当機構の「国立青少年交流の家」及び「国立青少年自然の家」において発生した利用者の傷病件数を、活動内容別及び傷病別に集計し、比較した表を事故データ集としてまとめています。

また、傷病事例から、危険度が高い又は発生頻度が高いと思われる事例について、その概要、原因及び改善策について隔年毎に事例をとりまとめています。

今回は、平成 29 年度のデータ及び平成 28 年度～平成 29 年度の事例を掲載した事故データ・事例集となっています。

※過去の事例は、当機構 HP にて閲覧できます。

(<http://www.niye.go.jp/services/training/>)

本事例集が青少年教育施設の管理運営に携わる方々や青少年の引率指導に当たる方々の参考となれば幸いです。

[用語説明]

- ・教育事業・・・青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業
- ・研修支援・・・全国 28 か所にある教育施設において、学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けた、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等
- ・OL・・・オリエンテーリング
- ・WR・・・ウォークラリー
- ・PA・・・プロジェクトアドベンチャー

I . 傷病狀況

1. 平成29年度 日帰り利用における傷病件数

本データは、国立青少年教育振興機構の27教育施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）を対象に、平成29年度に発生した傷病についてまとめたものである。各教育施設の保健室等利用件数、医療機関の利用者数及び保健カード（利用者が健康面に関する相談等をした際に記入）をもとに集計した。

データの対象となる27教育施設の平成29年度総利用者数は約306万人であり、同年度に発生した総傷病数は3,010件であった。

※活動内容のうち、「その他」又は「不明」の件数分は除く

1. 平成29年度 日帰り利用における傷病件数

(1) 活動別傷病件数

平成29年度日帰り利用における傷病は48件発生しており、傷病件数が多い順に「食事時間」が9件、「スポーツ・レクリエーション」が6件、「ハイキング」が5件であった。（表-1）

(2) 傷病内容詳細

件数が最も多い傷病は、食事時間では「腹痛」・「嘔吐」・「吐き気」が各2件（22.2%）、スポーツ・レクリエーションでは「捻挫打撲」が2件（33.3%）、ハイキングでは「生物系」が2件（40.0%）となっている。

【表-1】 活動別傷病件数（日帰り利用）

活動内容	件数
食事時間	9
スポーツ・レクリエーション	6
ハイキング	5
研修・学習・文化活動	4
自由時間	4
クラフト活動	3
武道・格闘技	3
移動中	3
雪中活動	3
オリエンテーリング	2
PA・アドベンチャープログラム	2
野外炊事	2
入所前	1
水辺の活動	1
合計	48

【表-2】 傷病内容詳細

食事時間	
内容	件数
腹痛	2
嘔吐	2
吐き気	2
頭痛	1
体調不良	1
生理痛	1
合計	9

スポーツ・レクリエーション	
内容	件数
捻挫打撲	2
生物系	1
脱臼	1
熱中・脱水	1
その他（外科系）	1
合計	6

ハイキング	
内容	件数
生物系	2
とげ	1
捻挫打撲	1
頭痛	1
合計	5

2. 平成29年度 宿泊利用における傷病件数

2. 平成29年度 宿泊利用における傷病件数

(1) 活動別傷病件数

平成29年度、宿泊利用における傷病は2,962件発生しており、傷病件数が多い順に、「研修・学習・文化活動」が424件（14.3%）、「スポーツ・レクリエーション」が390件（13.2%）、「自由時間」が343件（11.6%）であった。（表-3）

(2) 傷病内容詳細

傷病件数が多い「研修・学習・文化活動」、「スポーツ・レクリエーション」、「自由時間」の傷病内容をまとめると、感冒が229件、捻挫打撲が141件、頭痛が131件の順に多く、外科系よりも内科系の傷病が多い傾向である。（表-4）

【表-3】 活動別傷病件数(宿泊利用)

活動内容	件数
研修・学習・文化活動	424
スポーツ・レクリエーション	390
自由時間	343
就寝時間	252
食事時間	194
入所前	186
野外炊事	172
移動中	166
オリエンテーリング	119
つどい(朝・夕)	96
登山	94
ハイキング	67
水辺の活動(乗り物)	61
スキー等	55
ウォークラリー	50
武道・格闘技	49
入浴時間	42
水辺の活動	36
クラフト活動	34
クライミング・ボルダリング	29
雪中活動	29
PA・アドベンチャープログラム	26
キャンプファイヤー	23
サイクリング	13
キャンプファイヤー・キャンドルサービス	11
クロスカントリー	1
合計	2,962

【表-4】 傷病内容詳細

研修・学習・文化活動	
内容	件数
感冒	99
頭痛	73
体調不良	60
腹痛	39
捻挫打撲	26
嘔吐	16
合計	313

スポーツ・レクリエーション	
内容	件数
捻挫打撲	90
感冒	39
熱中・脱水	31
頭痛	26
生物系	24
体調不良	22
合計	232

自由時間	
内容	件数
感冒	91
頭痛	32
体調不良	30
生物系	26
腹痛	26
捻挫打撲	25
合計	230

※【表-4】上位6項目

3. 平成25年度～平成29年度の活動別傷病件数

3. 平成25年度～29年度の活動別傷病件数

(1) 活動別傷病件数

平成25年度から平成29年度までを通して、「スポーツ活動」の傷病件数が最多となっている。

また、5箇年を通して傷病件数の上位4項目の入れ替わりは無く、同じ活動内容である。

なお、平成29年度の傷病件数(3,010件)と昨年度の傷病件数(3,090件)を比較し、80件減少している。

【表-5】 活動別傷病件数

活動内容	件数				
	H29	H28	H27	H26	H25
スポーツ活動	491	457	523	532	518
研修・学習・文化活動	428	431	500	417	364
自由時間	347	411	389	420	274
就寝時間	252	299	280	266	372
食事時間	203	184	199	203	164
入所前	187	176	163	186	191
野外炊事	174	239	245	199	193
OL・WR	171	175	176	166	147
移動中	169	118	115	110	62
登山・ハイキング	166	152	239	172	209
水辺の活動	98	115	77	110	107
つどい(朝・夕)	96	96	79	78	66
雪中活動	87	82	129	122	111
入浴時間	42	26	37	34	32
クラフト活動	37	30	52	51	71
キャンプファイヤー・キャンドルサービス	34	49	38	37	55
PA・アドベンチャープログラム	28	50	23	23	18
合計	3,010	3,090	3,264	3,126	2,954

※スポーツ活動(スポーツ・レクリエーション、武道、サイクリング、クライミング、クロスカントリー 等)

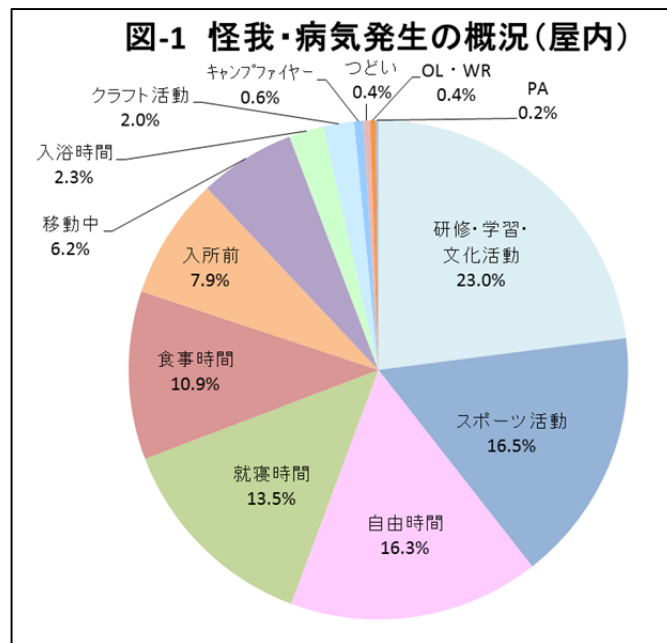
4. 施設（屋内）における傷病状況

4. 施設（屋内）における傷病状況

（1）活動別傷病件数

①傷病件数の比較

平成 29 年度施設屋内における傷病件数 1,864 件について活動内容別に傷病件数を集計した結果は、「研修・学習・文化活動」が 428 件（23.0%）、「スポーツ活動」が 307 件（16.5%）、「自由時間」が 303 件（16.3%）、「就寝時間」が 252 件（13.5%）であり、上位 4 種類の活動内容が全体の約 69%を占めている（図-1、表-6）。



【表-6】 怪我・病気発生の概況（屋内）

活動内容	H29		H28		H27		H26		H25	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
研修・学習・文化活動	428	23.0%	434	24.0%	500	25.7%	417	22.4%	364	21.4%
スポーツ活動	307	16.5%	263	14.5%	320	16.4%	281	15.1%	261	15.4%
自由時間	303	16.3%	341	18.9%	352	18.1%	386	20.8%	213	12.5%
就寝時間	252	13.5%	299	16.5%	280	14.4%	266	14.3%	372	21.9%
食事時間	203	10.9%	186	10.3%	199	10.2%	203	10.9%	164	9.7%
入所前	147	7.9%	140	7.7%	137	7.0%	143	7.7%	154	9.1%
移動中	116	6.2%	44	2.4%	50	2.6%	48	2.6%	29	1.7%
入浴時間	42	2.3%	26	1.4%	37	1.9%	34	1.8%	32	1.9%
クラフト活動	37	2.0%	32	1.8%	52	2.7%	51	2.7%	71	4.2%
キャンプファイヤー・キャンドルサービス	11	0.6%	16	0.9%	8	0.4%	11	0.6%	11	0.6%
つどい(朝・夕)	8	0.4%								
OL・WR	7	0.4%	27	1.5%	11	0.6%	19	1.0%	27	1.6%
PA・アドベンチャープログラム	3	0.2%								
合計	1,864	-	1,808	-	1,946	-	1,859	-	1,698	-

4. 施設（屋内）における傷病状況

（2）外科系・内科系傷病内容の比較

①主要な屋内活動における外科系傷病件数

傷病件数の多かった上位 4 種類の活動内容について、外科系傷病の件数に着目し集計した（表-7～表-10）。

上位 4 種類の傷病については、すべて「捻挫打撲」が最多となっており、過去の各年度においても最多となっているため、活動実施前にリスクを想定した準備を行い、活動中の安全確認に注意する必要がある。この他、研修・学習・文化活動では「切り傷」、「鼻血」の順、スポーツ活動では「突き指」、「骨折」の順、自由時間では「切り傷」、「骨折」の順、就寝時間では「生物系」、「切り傷」の順に件数が多くなっている。

■表-7 研修・学習・文化活動

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	11	17	16	9	26
切り傷	5	2	2	2	6
鼻血	8	9	10	3	4
生物系	2	13	2	4	4
とげ	2	1	0	3	2
骨折	2	2	1	1	2
眼科系		3	4	6	2
火傷	7	2	1	2	1
突き指	0	1	0	1	1
擦過傷	6	3	3	3	0
皮膚科系	2	3	2	3	0
靱帯系	1	0	1	0	0
筋肉疲労	0	4	3	3	0
脱臼	0	0	0	0	0
上記以外の痛み		4	0	6	6
合計	46	64	45	46	54

■表-8 スポーツ活動

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	71	69	78	61	76
突き指	12	14	11	9	11
骨折	9	8	9	14	11
切り傷	12	9	10	9	8
擦過傷	10	9	7	9	6
生物系	9	3	6	4	6
靱帯系	9	11	9	4	5
皮膚科系	1	1	2	2	4
筋肉疲労	4	12	2	6	4
眼科系		4	1	1	3
鼻血	3	3	2	2	2
火傷	0	0	1	0	1
脱臼	2	4	5	1	1
とげ	0	0	0	1	0
上記以外の痛み		18	8	9	12
合計	142	165	151	132	150

■表-9 自由時間

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	22	39	28	33	19
切り傷	2	3	8	3	15
骨折	1	4	13	6	6
擦過傷		8	3	3	4
生物系	9	24	15	14	3
とげ	0	1	3	0	2
皮膚科系	2	7	9	4	2
脱臼	1	7	1	2	1
眼科系	0	2	1	1	1
鼻血	2	4	5	8	0
火傷	0	2	1	0	0
靱帯系	0	4	0	1	0
突き指	1	0	1	1	0
筋肉疲労	5	7	6	6	0
上記以外の痛み		3	0	4	4

■表-10 就寝時間

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	8	4	13	8	8
生物系	1	0	1	1	6
切り傷	3	1	2	2	4
鼻血	1	0	0	1	4
眼科系	0	1	0	0	3
擦過傷	1	0	1	3	2
皮膚科系		3	4	0	2
骨折	3	12	13	6	2
筋肉疲労	1	2	3	1	2
火傷	0	0	0	0	1
突き指	4	4	2	5	1
とげ	0	0	0	0	0
靱帯系	2	0	1	1	0
脱臼	0	1	0	0	0
上記以外の痛み		1	1	5	4
合計	24	29	41	33	39

注 1：「眼科系」、「上記以外の痛み」は、平成 26 年度より追加した集計項目である。

注 2：「生物系」とは、虫刺され等、生物との接触を起因とする傷病である。

4. 施設（屋内）における傷病状況

②主要な屋内活動における内科系傷病件数

傷病件数の多かった上位 4 種類の活動内容について、内科系傷病の件数に着目し集計した(表-11～表-14)。内科系の傷病件数は、外科系傷病件数の約 3 倍と非常に多くなっている。

上位 4 種類の活動においては、すべて「感冒」が最多、次いで「頭痛」の順となっている。この他、「体調不良」、「腹痛」、「嘔吐」の件数も多いため、活動実施前・実施中の健康確認を徹底する必要がある。

■表-11 研修・学習・文化活動

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	113	106	138	104	99
頭痛	66	56	78	80	76
体調不良	27	28	71	50	60
腹痛	46	48	50	56	39
嘔吐	15	16	16	12	16
平衡障害	14	10	20	13	14
感染症	5	4	5	5	12
吐き気		33	34	17	11
呼吸系の発作	10	15	3	10	11
生理痛	7	14	10	12	11
熱中・脱水	5	8	11	3	7
痙攣症状	1	1	2	0	2
精神疾患		2	2	4	2
喘息	3	7	3	2	1
乗り物酔	2	1	0	0	0
下痢	1	0	3	1	0
アレルギー	3	1	6	2	0
上記以外の痛み		3	3	17	13
合計	318	353	455	388	374

■表-12 スポーツ活動

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	33	27	51	34	33
頭痛	26	24	33	25	27
体調不良	13	16	12	17	22
腹痛	9	9	23	17	12
熱中・脱水		9	11	3	10
感染症	13	6	11	8	9
嘔吐	6	7	9	9	9
吐き気	5	4	5	6	8
呼吸系の発作	0	0	5	3	6
平衡障害	2	0	0	2	4
喘息	7	1	5	1	3
生理痛	0	1	0	0	2
アレルギー	3	1	0	1	1
痙攣症状	1	8	4	3	1
乗り物酔		0	0	0	0
下痢	0	1	0	0	0
精神疾患	1	0	0	0	0
上記以外の痛み		2	0	2	10
合計	119	116	169	131	157

■表-13 自由時間

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	71	122	108	85	91
頭痛	14	38	35	55	32
体調不良	13	7	15	26	30
腹痛	16	14	3	11	25
嘔吐	20	28	31	15	17
吐き気		11	15	8	12
感染症	24	26	33	28	9
熱中・脱水		1	0	1	5
呼吸系の発作	1	1	0	2	4
喘息	1	4	3	5	3
平衡障害	4	4	4	2	2
下痢	1	1	1	3	2
生理痛	0	1	2	3	2
アレルギー	1	3	2	2	2
痙攣症状	2	5	5	2	1
精神疾患	0	5	1	2	0
乗り物酔	0	0	0	0	0
上記以外の痛み		0	0	5	9
合計	168	271	258	255	246

■表-14 就寝時間

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	135	86	113	122	76
頭痛	52	26	21	24	26
嘔吐	42	30	22	22	24
体調不良	36	12	16	23	22
腹痛	19	9	18	22	18
吐き気	12	8	8	3	11
感染症	1	1	1	3	10
喘息	0	0	2	1	6
熱中・脱水	35	25	20	15	4
生理痛	1	2	1	3	4
呼吸系の発作	6	3	3	1	3
平衡障害		18	8	12	2
アレルギー	1	1	1	3	2
下痢	3	8	3	0	1
痙攣症状	5	7	0	1	1
乗り物酔		1	1	1	0
精神疾患	0	0	0	0	0
上記以外の痛み		0	1	10	3
合計	348	237	239	266	213

注 1:「吐き気」、「精神疾患」、「上記以外の痛み」は、平成 26 年度より追加した集計項目である。

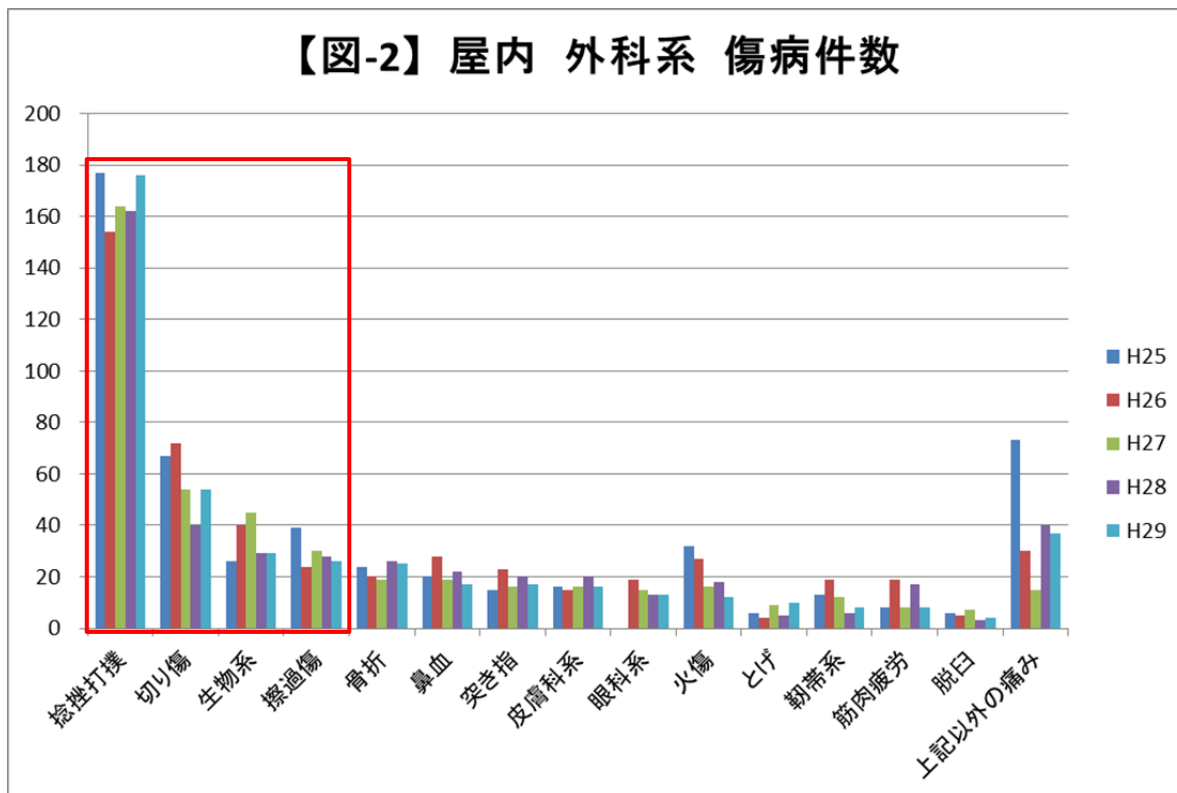
注 2:「平均障害」は、めまいや貧血等の傷病の総称である。

4. 施設（屋内）における傷病状況

（3）傷病別件数

①外科系

施設屋内において発生した 452 件の外科系傷病について、傷病別に分類すると、「捻挫打撲」が 176 件と全体の約 39%を占めている。次いで、「切り傷」が 54 件、「生物系」が 29 件、「擦過傷」が 26 件となっており、上位 4 種類の傷病件数が全体の約 63%を占めている（図-2、表-15）。



■表-15 屋内 外科系傷病件数

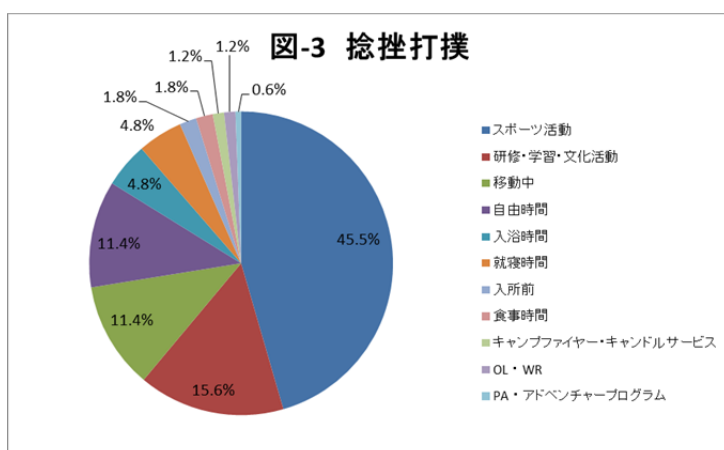
傷病	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	177	154	164	162	176
切り傷	67	72	54	40	54
生物系	26	40	45	29	29
擦過傷	39	24	30	28	26
骨折	24	20	19	26	25
鼻血	20	28	19	22	17
突き指	15	23	16	20	17
皮膚科系	16	15	16	20	16
眼科系	16	19	15	13	13
火傷	32	27	16	18	12
とげ	6	4	9	5	10
靱帯系	13	19	12	6	8
筋肉疲労	8	19	8	17	8
脱臼	6	5	7	3	4
上記以外の痛み	73	30	15	40	37
合計	522	499	445	449	452

4. 施設（屋内）における傷病状況

表-15 より、発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図-3～6、表-16～19）。

a. 捻挫打撲

捻挫打撲の発生件数が多い活動内容は、「スポーツ活動」が 76 件（45.5%）、「研修・学習・文化活動」が 26 件（15.6%）、「移動中」と「自由時間」が各 19 件（11.4%）となっている。

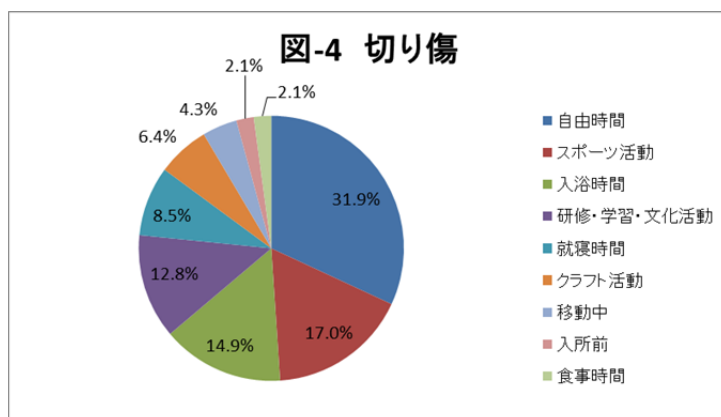


■表-16 捻挫打撲

活動内容	件数	割合
スポーツ活動	76	45.5%
研修・学習・文化活動	26	15.6%
移動中	19	11.4%
自由時間	19	11.4%
入浴時間	8	4.8%
就寝時間	8	4.8%
入所前	3	1.8%
食事時間	3	1.8%
キャンプファイヤー・キャンドルサービス	2	1.2%
OL・WR	2	1.2%
PA・アドベンチャープログラム	1	0.6%
合計	167	-

b. 切り傷

切り傷の発生件数が多い活動内容は、「自由時間」が 15 件（31.9%）、「スポーツ活動」が 8 件（17.0%）、「入浴時間」が 7 件（14.9%）となっている。



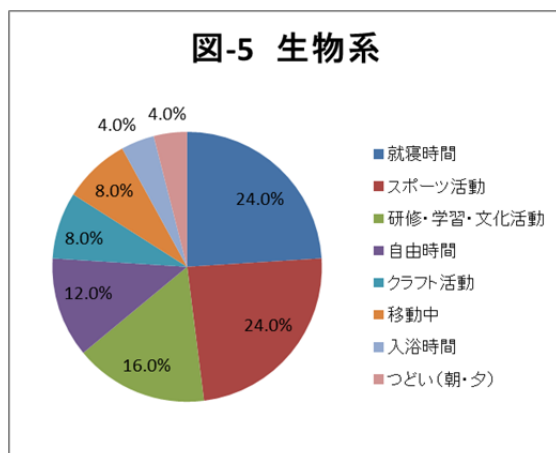
■表-17 切り傷

活動内容	件数	割合
自由時間	15	31.9%
スポーツ活動	8	17.0%
入浴時間	7	14.9%
研修・学習・文化活動	6	12.8%
就寝時間	4	8.5%
クラフト活動	3	6.4%
移動中	2	4.3%
入所前	1	2.1%
食事時間	1	2.1%
合計	47	-

4. 施設（屋内）における傷病状況

c.生物系

生物系傷病の発生件数が多い活動内容は、「就寝時間」と「スポーツ活動」が各 6 件（24.0%）、「研修・学習・文化活動」が 4 件（16.0%）となっている。

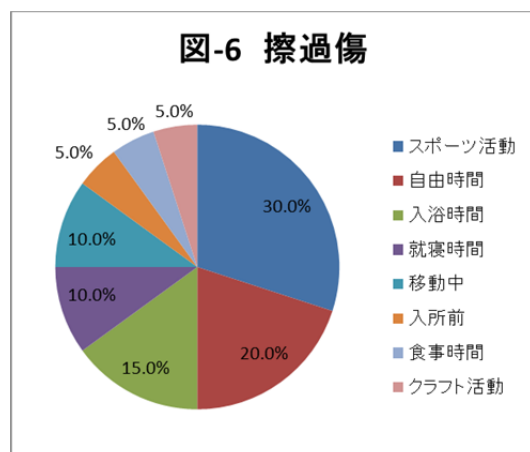


■表-18 生物系

活動内容	件数	割合
就寝時間	6	24.0%
スポーツ活動	6	24.0%
研修・学習・文化活動	4	16.0%
自由時間	3	12.0%
クラフト活動	2	8.0%
移動中	2	8.0%
入浴時間	1	4.0%
つどい(朝・夕)	1	4.0%
合計	25	-

d.擦過傷

擦過傷の発生件数が多い活動内容は、「スポーツ活動」が 6 件（30.0%）、「自由時間」が 4 件（20.0%）、「入浴時間」が 3 件（15.0%）となっている。



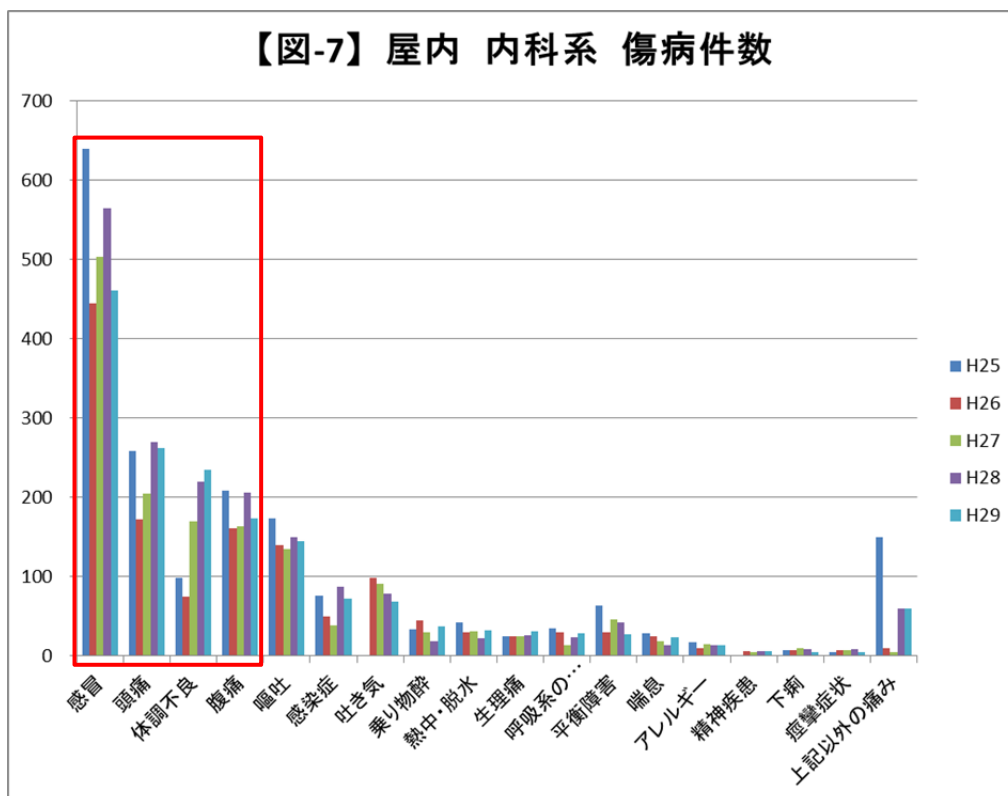
■表-19 擦過傷

活動内容	件数	割合
スポーツ活動	6	30.0%
自由時間	4	20.0%
入浴時間	3	15.0%
就寝時間	2	10.0%
移動中	2	10.0%
入所前	1	5.0%
食事時間	1	5.0%
クラフト活動	1	5.0%
合計	20	-

4. 施設（屋内）における傷病状況

②内科系

施設屋内において発生した 1,681 件の内科系傷病について傷病別に分類すると、「感冒」が 461 件で約 27%を占めている。次いで、「頭痛」が 262 件、「体調不良」が 234 件、「腹痛」が 173 件となっており、上位 4 種類が全体の約 67%を占めている（図-7、表-20）。



■表-20 屋内 内科系傷病件数

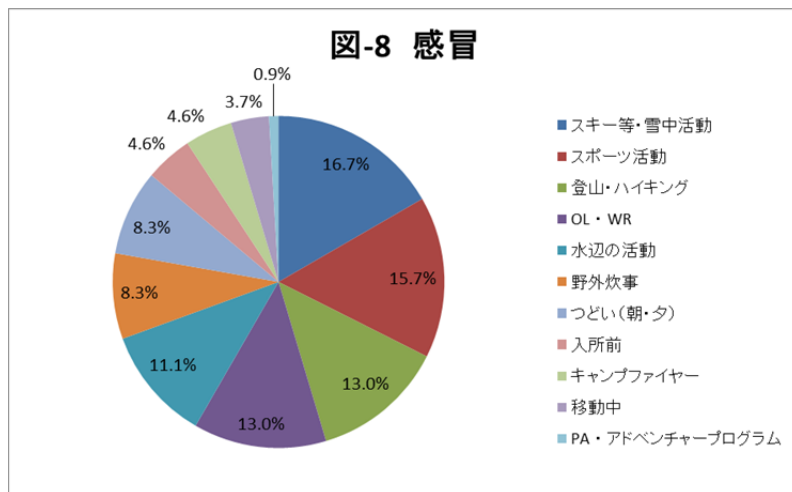
傷病	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	639	445	503	564	461
頭痛	258	172	205	270	262
体調不良	98	75	169	219	234
腹痛	208	161	163	206	173
嘔吐	173	139	134	149	144
感染症	76	50	38	87	72
吐き気	33	98	91	78	68
乗り物酔	33	45	29	18	37
熱中・脱水	42	29	31	22	32
生理痛	24	25	24	26	31
呼吸系の発作	35	29	13	23	28
平衡障害	63	30	46	42	27
喘息	28	24	18	13	23
アレルギー	17	9	15	13	13
精神疾患	7	6	5	6	6
下痢	7	7	10	8	5
痙攣症状	5	7	7	8	5
上記以外の痛み	150	9	4	60	60
合計	1,856	1,360	1,505	1,812	1,681

4. 施設（屋内）における傷病状況

発生件数の多かった上位4種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図-8～11、表-21～24）。

a.感冒

感冒の発生件数が多い活動内容は、「スキー等・雪中活動」が18件（16.7%）「スポーツ活動」が17件（15.7%）、「登山・ハイキング」と「オリエンテーリング・ウォークラリー」が各14件（13.0%）となっている。

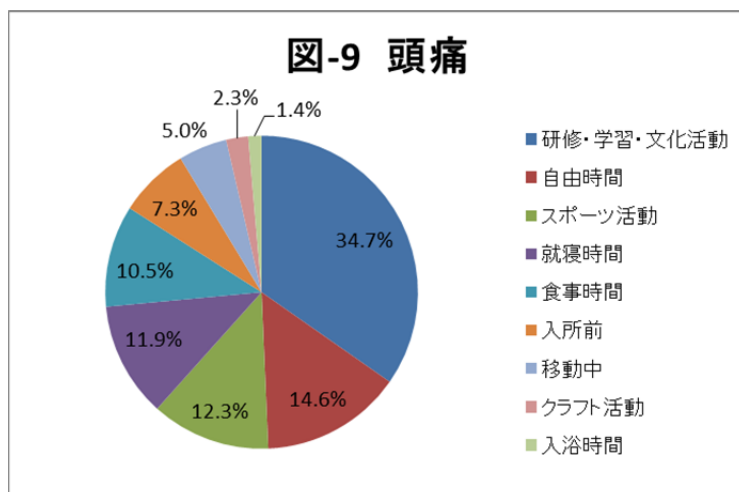


■表-21 感冒

活動内容	件数	割合
スキー等・雪中活動	18	16.7%
スポーツ活動	17	15.7%
登山・ハイキング	14	13.0%
OL・WR	14	13.0%
水辺の活動	12	11.1%
野外炊事	9	8.3%
つどい(朝・夕)	9	8.3%
入所前	5	4.6%
キャンプファイヤー	5	4.6%
移動中	4	3.7%
PA・アドベンチャープログラム	1	0.9%
合計	108	—

b.頭痛

頭痛の発生が多い活動内容は、「研修・学習・文化活動」が76件（34.7%）、「自由時間」が32件（14.6%）、「スポーツ活動」が27件（12.3%）となっている。



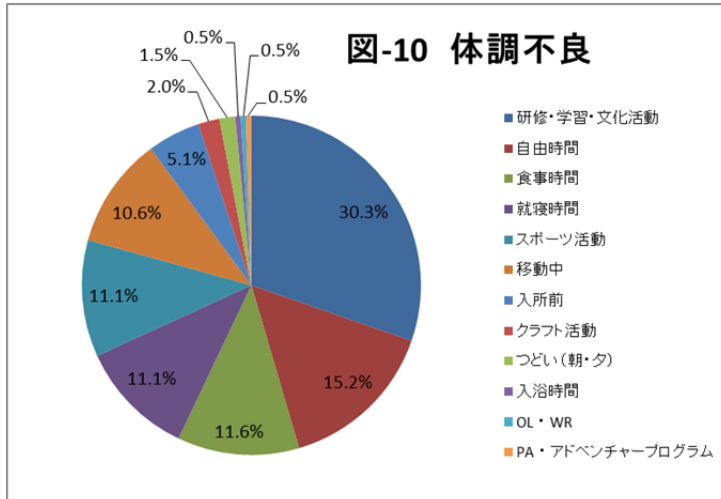
■表-22 頭痛

活動内容	件数	割合
研修・学習・文化活動	76	34.7%
自由時間	32	14.6%
スポーツ活動	27	12.3%
就寝時間	26	11.9%
食事時間	23	10.5%
入所前	16	7.3%
移動中	11	5.0%
クラフト活動	5	2.3%
入浴時間	3	1.4%
合計	219	—

4. 施設（屋内）における傷病状況

c. 体調不良

体調不良の発生が多い活動内容は、「研修・学習・文化活動」が 60 件（30.3%）、「自由時間」が 30 件（15.2%）、「食事時間」が 23 件（11.6%）となっている。

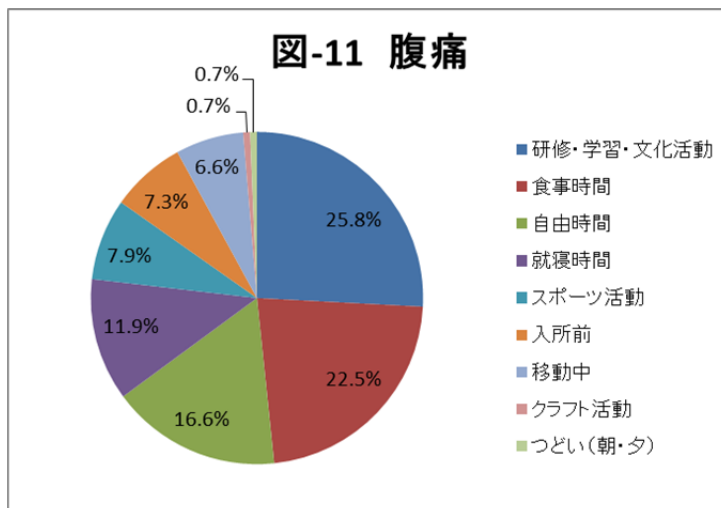


■表-23 体調不良

活動内容	件数	割合
研修・学習・文化活動	60	30.3%
自由時間	30	15.2%
食事時間	23	11.6%
就寝時間	22	11.1%
スポーツ活動	22	11.1%
移動中	21	10.6%
入所前	10	5.1%
クラフト活動	4	2.0%
つどい(朝・夕)	3	1.5%
入浴時間	1	0.5%
OL・WR	1	0.5%
PA・アドベンチャープログラム	1	0.5%
合計	198	-

d. 腹痛

腹痛の発生が多い活動内容は、「研修・学習・文化活動」が 39 件（25.8%）、「食事時間」が 34 件（22.5%）、「自由時間」が 25 件（16.6%）となっている。



■表-24 腹痛

活動内容	件数	割合
研修・学習・文化活動	39	25.8%
食事時間	34	22.5%
自由時間	25	16.6%
就寝時間	18	11.9%
スポーツ活動	12	7.9%
入所前	11	7.3%
移動中	10	6.6%
クラフト活動	1	0.7%
つどい(朝・夕)	1	0.7%
合計	151	-

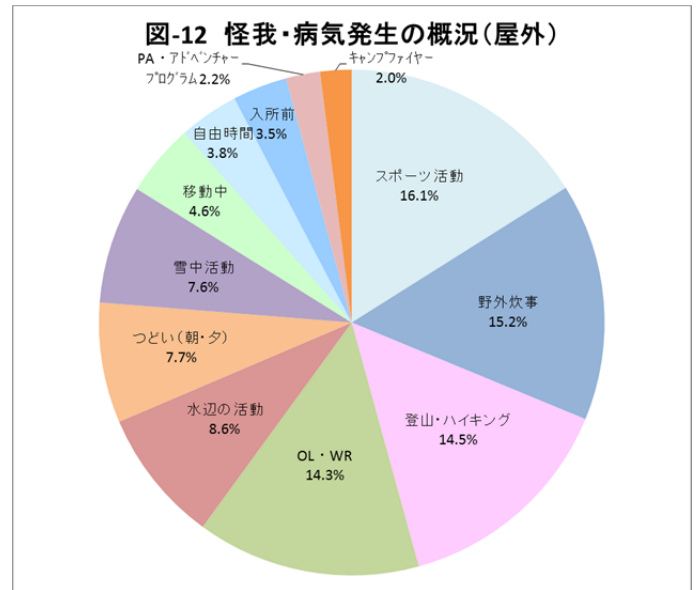
5. 施設（屋外）における傷病状況

5.施設（屋外）における傷病状況

（1）活動別傷病件数

①傷病件数の比較

平成 29 年度に施設屋外において発生した傷病件数 1,146 件について活動内容別に傷病件数を集計した結果は、「スポーツ活動」が 184 件（16.1%）、「野外炊事」が 174 件（15.2%）、「登山・ハイキング」が 166 件（14.5%）、「オリエンテーリング・ウォークラリー」が 164 件（14.3%）であり、上位 4 種類の活動内容が全体の約 60% を占めている（図-12、表-25）。



【表-25】 怪我・病気発生の概況（屋外）

活動内容	H29		H28		H27		H26		H25	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
スポーツ活動	184	16.1%	203	15.3%	203	14.8%	251	19.1%	257	20.5%
野外炊事	174	15.2%	239	18.0%	245	17.9%	199	15.1%	193	15.4%
登山・ハイキング	166	14.5%	155	11.7%	239	17.5%	172	13.1%	209	16.7%
OL・WR	164	14.3%	148	11.2%	165	12.1%	147	11.2%	120	9.6%
水辺の活動	98	8.6%	115	8.7%	77	5.6%	110	8.4%	107	8.5%
つどい(朝・夕)	88	7.7%	96	7.2%	79	5.8%	78	5.9%	66	5.3%
雪中活動	87	7.6%	92	6.9%	129	9.4%	122	9.3%	111	8.9%
移動中	53	4.6%	74	5.6%	65	4.8%	62	4.7%	33	2.6%
自由時間	44	3.8%	74	5.6%	87	6.4%	82	6.2%	61	4.9%
入所前	40	3.5%	46	3.5%	26	1.9%	43	3.3%	37	3.0%
PA・アドベンチャープログラム	25	2.2%	50	3.8%	23	1.7%	23	1.7%	18	1.4%
キャンプファイヤー	23	2.0%	33	2.5%	30	2.2%	26	2.0%	40	3.2%
合計	1,146	-	1,325	-	1,368	-	1,315	-	1,252	-

5. 施設（屋外）における傷病状況

（2）外科系・内科系傷病内容の比較

①主要な屋外活動における外科系傷病件数

傷病件数の多かった上位4種類の活動内容について、外科系傷病の件数に着目し集計した(表-26～29)。

スポーツ活動とオリエンテーリング・ウォークラリーでは「捻挫打撲」、野外炊事では「火傷」、登山・ハイキングでは「生物系」が最多となっている。特に、「生物系」は上位4種類で計115件と多く、蜂刺され等の事例が報告されていることから、使用するフィールドの事前確認や救急用品（ポイズンリムーバー等）の用意、活動実施前の服装確認が重要である。

■表-26 スポーツ活動

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	52	61	38	36	30
生物系	8	33	11	13	20
擦過傷	31	27	12	5	11
切り傷	15	9	10	10	7
筋肉疲労	5	3	5	2	4
皮膚科系	1	4	2	0	3
骨折	12	12	6	5	2
眼科系		2	1	2	2
とげ	0	2	2	1	1
鼻血	4	1	0	2	1
脱臼	2	4	2	0	1
火傷	1	0	0	1	0
靱帯系	1	4	3	1	0
突き指	9	3	2	5	0
上記以外の痛み		5	5	7	7
合計	141	170	99	90	89

■表-27 野外炊事

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
火傷	44	49	42	36	45
生物系	13	37	63	67	29
切り傷	36	29	29	31	21
捻挫打撲	11	9	13	7	6
眼科系		1	0	2	4
擦過傷	4	4	5	1	3
とげ	2	2	0	2	1
皮膚科系	1	2	2	3	1
鼻血	1	2	0	1	1
骨折	3	2	0	0	1
脱臼	0	0	0	0	1
靱帯系	1	0	2	0	0
筋肉疲労	0	0	2	0	0
突き指	0	0	1	0	0
上記以外の痛み		0	2	0	1
合計	116	137	161	150	114

■表-28 登山・ハイキング

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
生物系	46	16	54	34	39
捻挫打撲	40	38	42	27	31
擦過傷	12	5	7	7	10
骨折	5	5	3	8	3
切り傷	10	12	10	3	2
鼻血	0	4	0	0	2
筋肉疲労	6	6	1	1	2
とげ	4	6	3	4	1
皮膚科系	0	0	9	4	1
脱臼	1	0	0	0	1
眼科系		2	2	1	1
火傷	0	1	0	0	0
靱帯系	4	2	1	0	0
突き指	1	0	0	1	0
上記以外の痛み		0	2	3	6
合計	129	97	134	93	99

■表-29 OL・WR

外科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
捻挫打撲	26	27	33	29	29
生物系	7	14	22	18	27
擦過傷	5	5	4	8	5
皮膚科系	1	4	4	3	4
眼科系		2	1	1	3
切り傷	4	12	10	3	2
とげ	3	0	0	1	2
鼻血	0	0	1	1	2
骨折	4	1	3	0	1
火傷	0	0	0	0	0
靱帯系	1	1	0	2	0
突き指	2	2	0	0	0
筋肉疲労	0	0	1	2	0
脱臼	1	0	0	0	0
上記以外の痛み		2	1	6	2
合計	54	70	80	74	77

5. 施設（屋外）における傷病状況

②主要な屋外活動における内科系傷病件数

傷病件数の多かった上位4種類の活動内容について、内科系傷病の件数に着目し集計した（表-30～33）。屋外活動の傷病件数については、屋内活動とは対照的に、外科系傷病と比較して内科系傷病の件数が少なくなっている（約20%減）。

スポーツ活動では「熱中・脱水」、野外炊事では「体調不良」、登山・ハイキングでは「感冒」、オリエンテーリング・ウォークラリーでは「頭痛」が最多となっているため、屋内活動と同様、活動実施前・実施中の健康確認を徹底する必要がある。

また、登山・ハイキングの活動では病気・怪我の対処が難しく、医療機関への受診まで時間を要することから、注意が必要である。

■表-30 スポーツ活動

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
熱中・脱水	29	24	31	22	25
感冒	36	17	22	15	17
腹痛	7	7	5	10	13
体調不良	11	5	15	21	10
頭痛	13	9	10	14	8
呼吸系の発作	3	1	3	7	7
嘔吐	6	8	3	2	3
平衡障害	4	0	5	1	3
アレルギー	3	0	0	0	2
感染症	1	5	1	14	1
喘息	2	0	1	2	1
生理痛	0	0	2	0	1
痙攣症状	0	0	0	1	1
乗り物酔	0	0	0	0	0
下痢	1	1	3	0	0
吐き気		4	3	3	0
精神疾患		0	0	0	0
上記以外の痛み		0	0	1	3
合計	116	81	104	113	95

■表-31 野外炊事

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
体調不良	6	0	13	16	12
感冒	31	19	18	21	9
頭痛	11	10	10	12	8
嘔吐	3	0	5	3	7
腹痛	16	11	11	25	6
平衡障害	1	1	5	1	3
熱中・脱水	6	4	7	5	3
吐き気		5	7	1	3
精神疾患		1	0	0	2
喘息	0	2	3	1	1
呼吸系の発作	0	3	0	0	1
痙攣症状	1	0	0	0	1
感染症	0	3	0	1	0
乗り物酔	0	0	0	0	0
下痢	1	1	0	0	0
生理痛	0	1	3	1	0
アレルギー	1	1	2	0	0
上記以外の痛み		0	0	2	4
合計	77	62	84	89	60

■表-32 登山・ハイキング

内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	23	20	37	13	14
体調不良	4	5	7	10	14
頭痛	18	12	34	5	10
熱中・脱水	9	7	4	10	9
嘔吐	11	3	5	3	3
吐き気		5	7	2	3
腹痛	8	5	6	7	2
平衡障害	1	0	0	2	2
喘息	2	3	0	2	2
アレルギー	1	3	1	2	2
乗り物酔	0	0	0	1	1
呼吸系の発作	1	9	1	1	1
痙攣症状	0	1	1	0	1
感染症	0	1	0	1	0
下痢	0	0	1	0	0
生理痛	2	1	0	1	0
精神疾患		0	0	0	0
上記以外の痛み		0	1	2	3
合計	80	75	105	62	67

■表-33 OL・WR

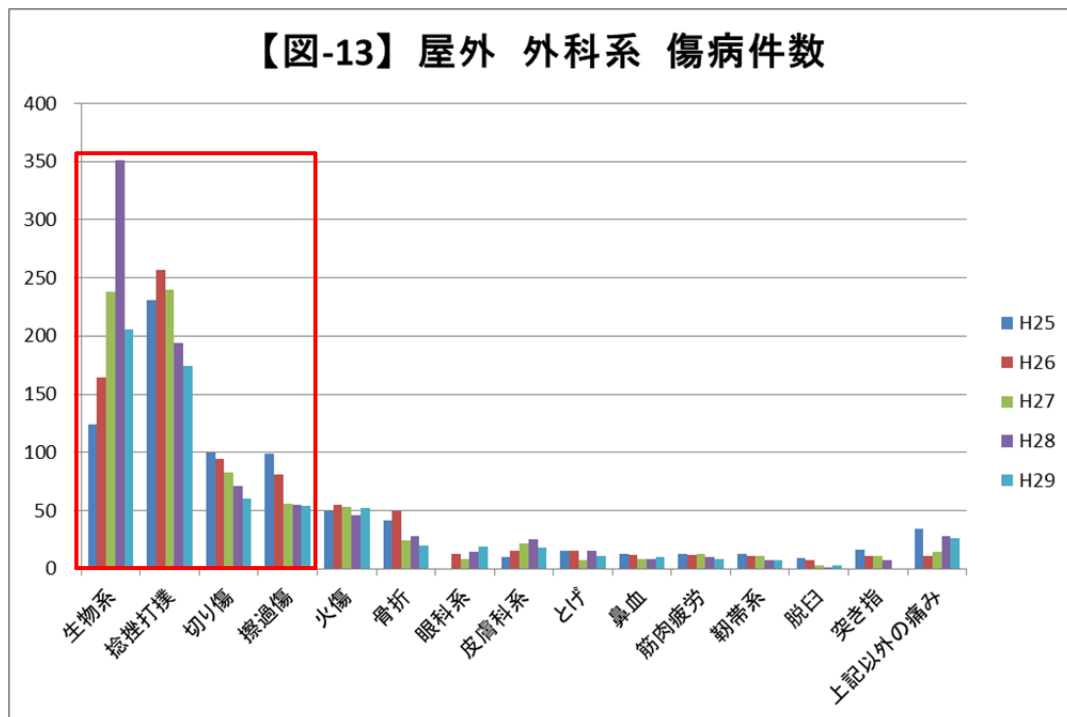
内科系	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
頭痛	7	17	8	20	23
体調不良	7	2	17	10	18
熱中・脱水	20	7	21	12	16
感冒	12	18	15	11	14
腹痛	5	11	12	8	5
呼吸系の発作	0	1	2	0	4
喘息	1	2	1	4	2
生理痛	1	0	1	1	2
嘔吐	4	8	2	1	1
平衡障害	6	4	3	4	1
吐き気		5	2	3	1
感染症	0	0	0	0	0
乗り物酔	0	0	0	0	0
下痢	0	0	0	0	0
アレルギー	3	2	0	0	0
痙攣症状	0	0	1	0	0
精神疾患		0	0	0	0
上記以外の痛み		0	0	0	0
合計	66	77	85	74	87

5. 施設（屋外）における傷病状況

（3）傷病別件数

①外科系

施設屋外において発生した 668 件の外科系傷病について傷病別に分類したところ、「生物系」が 206 件と全体の約 31%を占めている。次いで、「捻挫打撲」が 174 件、「切り傷」が 60 件、「擦過傷」が 54 件となっており、以上の上位 4 種類が全体の約 74%を占めている（図-13、表-34）。



■表-34 屋外 外科系傷病件数

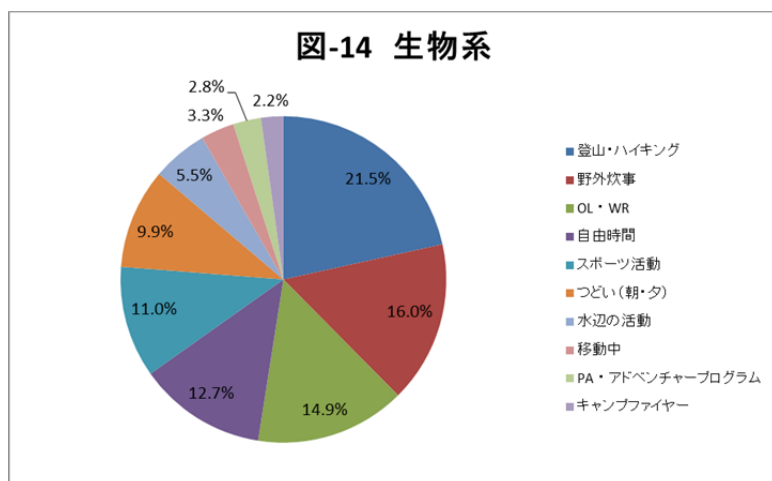
傷病	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
生物系	124	164	238	351	206
捻挫打撲	231	257	240	194	174
切り傷	100	94	83	71	60
擦過傷	99	81	56	55	54
火傷	49	55	53	46	52
骨折	41	49	24	28	20
眼科系		13	8	14	19
皮膚科系	10	15	22	25	18
とげ	15	15	7	15	11
鼻血	13	12	8	8	10
筋肉疲労	13	12	13	10	8
靱帯系	13	11	11	7	7
脱臼	9	7	3	1	3
突き指	16	11	11	7	0
上記以外の痛み	34	11	14	28	26
合計	767	807	791	860	668

5. 施設（屋外）における傷病状況

表-34 より、発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図-14～17、表-35～38）。

a.生物系

生物系傷病の発生件数が多い活動内容は、「登山・ハイキング」が 39 件（21.5%）、「野外炊事」が 29 件（16.0%）、「オリエンテーリング・ウォークラリー」が 27 件（14.9%）となっている。

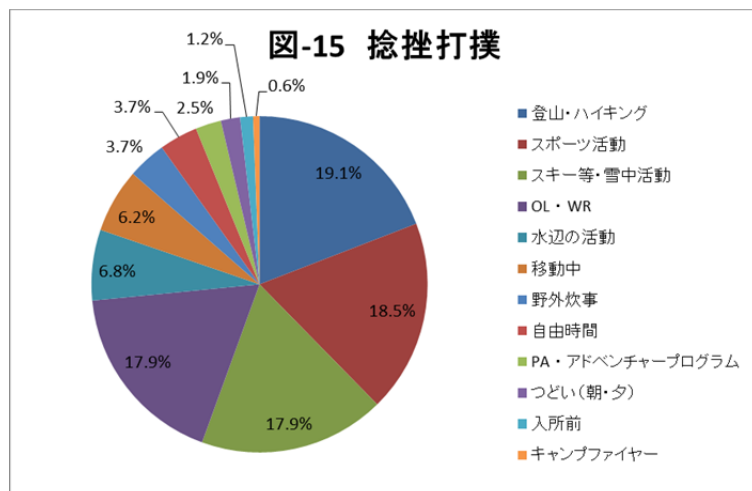


■表-35 生物系

活動内容	件数	割合
登山・ハイキング	39	21.5%
野外炊事	29	16.0%
OL・WR	27	14.9%
自由時間	23	12.7%
スポーツ活動	20	11.0%
つどい(朝・夕)	18	9.9%
水辺の活動	10	5.5%
移動中	6	3.3%
PA・アドベンチャープログラム	5	2.8%
キャンプファイヤー	4	2.2%
合計	181	—

b.捻挫打撲

捻挫打撲の発生件数が多い活動内容は、「登山・ハイキング」が 31 件（19.1%）、「スポーツ活動」が 30 件（18.5%）、「スキー等・雪中活動」と「オリエンテーリング・ウォークラリー」が各 29 件（17.9%）となっている。



■表-36 捻挫打撲

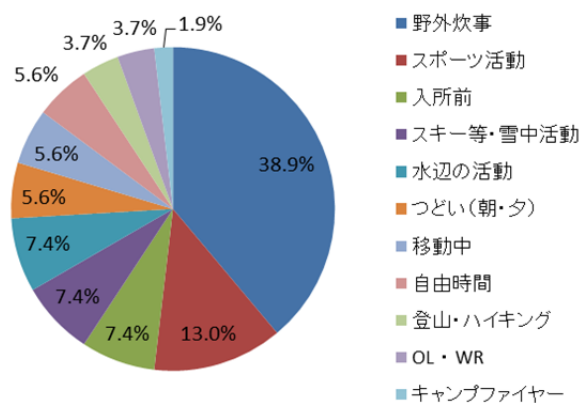
活動内容	件数	割合
登山・ハイキング	31	19.1%
スポーツ活動	30	18.5%
スキー等・雪中活動	29	17.9%
OL・WR	29	17.9%
水辺の活動	11	6.8%
移動中	10	6.2%
野外炊事	6	3.7%
自由時間	6	3.7%
PA・アドベンチャープログラム	4	2.5%
つどい(朝・夕)	3	1.9%
入所前	2	1.2%
キャンプファイヤー	1	0.6%
合計	162	—

5. 施設（屋外）における傷病状況

c. 切り傷

切り傷の発生件数が多い活動内容は、「野外炊事」が 21 件（38.9%）、「スポーツ活動」が 7 件（13.0%）、「入所前」と「スキー等・雪中活動」並びに「水辺の活動」が各 4 件（7.4%）となっている。

図-16 切り傷



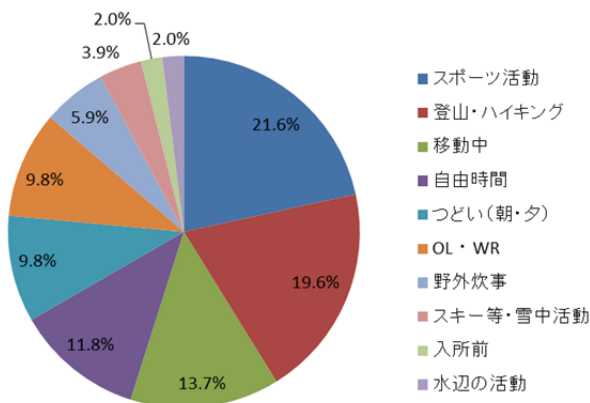
■表-37 切り傷

活動内容	件数	割合
野外炊事	21	38.9%
スポーツ活動	7	13.0%
入所前	4	7.4%
スキー等・雪中活動	4	7.4%
水辺の活動	4	7.4%
つどい(朝・夕)	3	5.6%
移動中	3	5.6%
自由時間	3	5.6%
登山・ハイキング	2	3.7%
OL・WR	2	3.7%
キャンプファイヤー	1	1.9%
合計	54	-

d. 擦過傷

擦過傷の発生件数が多い活動内容は、「スポーツ活動」が 11 件（21.6%）、「登山・ハイキング」が 10 件（19.6%）、「移動中」が 7 件（13.7%）となっている。

図-17 擦過傷



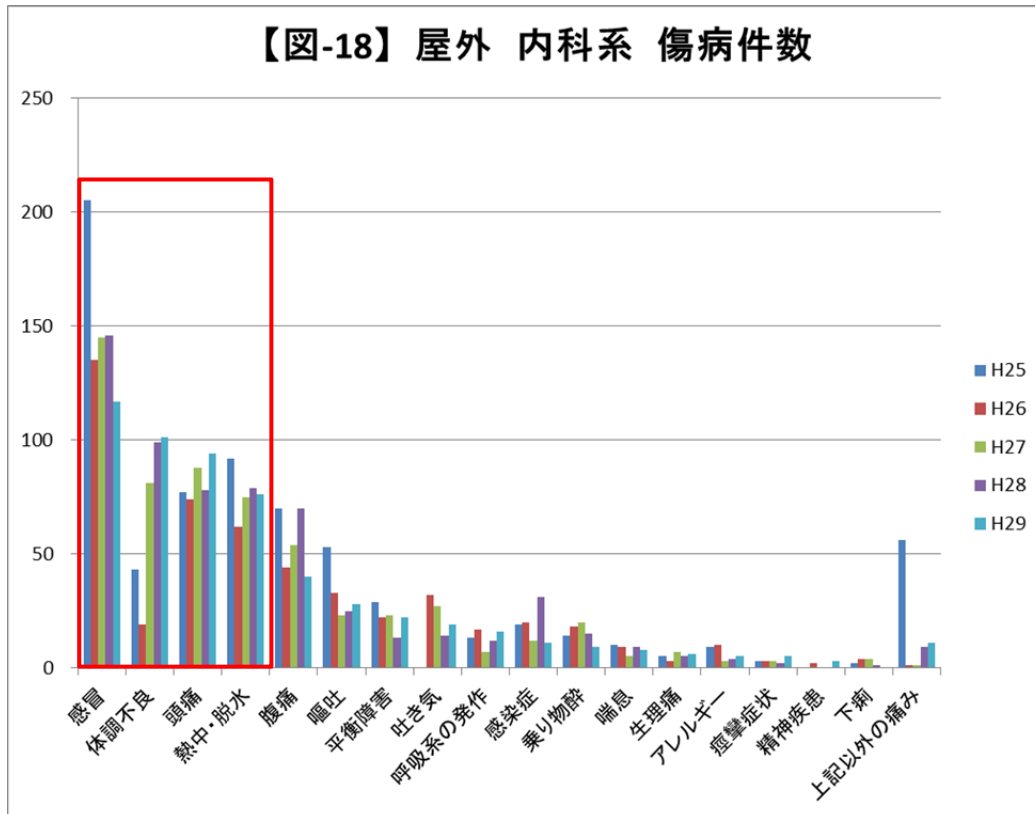
■表-38 擦過傷

活動内容	件数	割合
スポーツ活動	11	21.6%
登山・ハイキング	10	19.6%
移動中	7	13.7%
自由時間	6	11.8%
つどい(朝・夕)	5	9.8%
OL・WR	5	9.8%
野外炊事	3	5.9%
スキー等・雪中活動	2	3.9%
入所前	1	2.0%
水辺の活動	1	2.0%
合計	51	-

5. 施設（屋外）における傷病状況

②内科系

施設屋外において発生した 571 件の内科系傷病について傷病別に分類すると、「感冒」が 117 件で約 21%を占めている。次いで、「体調不良」が 101 件、「頭痛」が 94 件、「熱中・脱水」が 76 件となっており、上位 4 種類が全体の約 68%を占めている（図-18、表-39）。



■表-39 屋外 内科系傷病件数

傷病	件数				
	H25	H26	H27	H28	H29
感冒	205	135	145	146	117
体調不良	43	19	81	99	101
頭痛	77	74	88	78	94
熱中・脱水	92	62	75	79	76
腹痛	70	44	54	70	40
嘔吐	53	33	23	25	28
平衡障害	29	22	23	13	22
吐き気	13	32	27	14	19
呼吸系の発作	13	17	7	12	16
感染症	19	20	12	31	11
乗り物酔	14	18	20	15	9
喘息	10	9	5	9	8
生理痛	5	3	7	5	6
アレルギー	9	10	3	4	5
痙攣症状	3	3	3	2	5
精神疾患	2	4	4	1	0
下痢	2	4	4	1	0
上記以外の痛み	56	1	1	9	11
合計	700	508	578	612	571

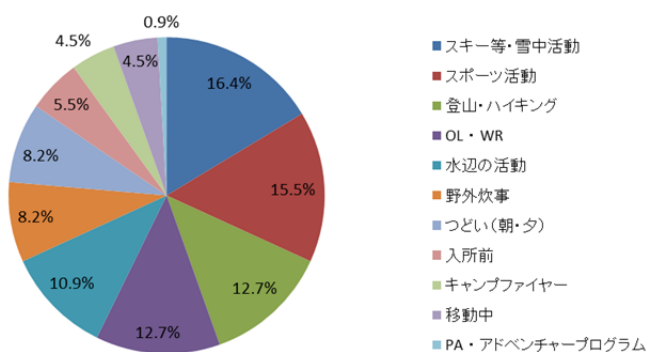
5. 施設（屋外）における傷病状況

発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した。（図-19～22、表 40～43）

a.感冒

感冒の発生件数が多い活動内容は、「スキー等・雪中活動」が 18 件（16.4%）、「スポーツ活動」が 17 件（15.5%）、「登山・ハイキング」と「オリエンテーリング・ウォークラリー」が各 14 件（12.7%）となっている。

図-19 感冒



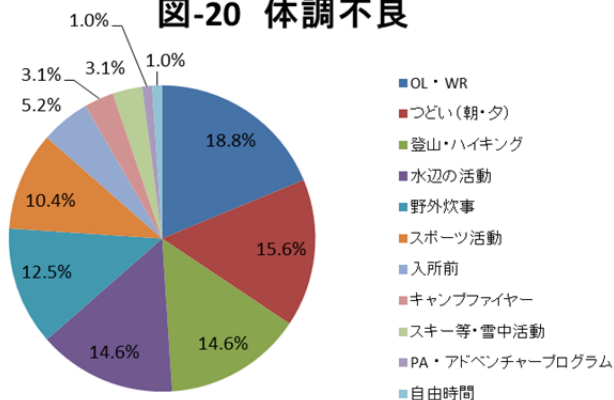
■表-40 感冒

活動内容	件数	割合
スキー等・雪中活動	18	16.4%
スポーツ活動	17	15.5%
登山・ハイキング	14	12.7%
OL・WR	14	12.7%
水辺の活動	12	10.9%
野外炊事	9	8.2%
つどい(朝・夕)	9	8.2%
入所前	6	5.5%
キャンプファイヤー	5	4.5%
移動中	5	4.5%
PA・アドベンチャープログラム	1	0.9%
合計	110	-

b.体調不良

体調不良の発生件数が多い活動内容は、「オリエンテーリング・ウォークラリー」が 18 件（18.8%）、「つどい」が 15 件（15.6%）、「登山・ハイキング」と「水辺の活動」が各 14 件（14.6%）となっている。

図-20 体調不良



■表-41 体調不良

活動内容	件数	割合
OL・WR	18	18.8%
つどい(朝・夕)	15	15.6%
登山・ハイキング	14	14.6%
水辺の活動	14	14.6%
野外炊事	12	12.5%
スポーツ活動	10	10.4%
入所前	5	5.2%
キャンプファイヤー	3	3.1%
スキー等・雪中活動	3	3.1%
PA・アドベンチャープログラム	1	1.0%
自由時間	1	1.0%
合計	96	-

5. 施設（屋外）における傷病状況

c. 頭痛

頭痛の発生件数が多い活動内容は、「オリエンテーリング・ウォークラリー」が 23 件（27.7%）、「登山・ハイキング」が 10 件（12.0%）、「水辺の活動」が 9 件（10.8%）となっている。

図-21 頭痛

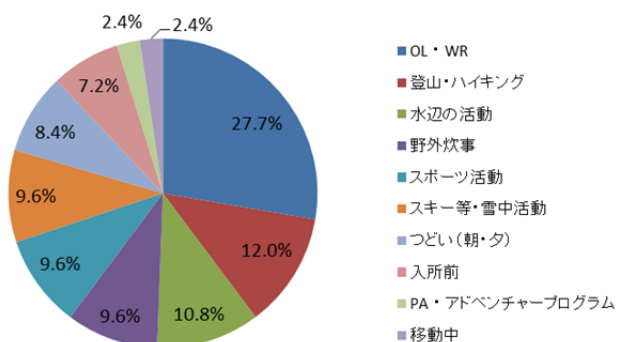


表-42 頭痛

活動内容	件数	割合
OL・WR	23	27.7%
登山・ハイキング	10	12.0%
水辺の活動	9	10.8%
野外炊事	8	9.6%
スポーツ活動	8	9.6%
スキー等・雪中活動	8	9.6%
つどい(朝・夕)	7	8.4%
入所前	6	7.2%
PA・アドベンチャープログラム	2	2.4%
移動中	2	2.4%
合計	83	-

d. 熱中・脱水

熱中・脱水の発生件数が多い活動内容は、「スポーツ活動」が 25 件（33.8%）、「オリエンテーリング・ウォークラリー」が 16 件（21.6%）、「水辺の活動」が 14 件（18.9%）となっている。

図-22 熱中・脱水

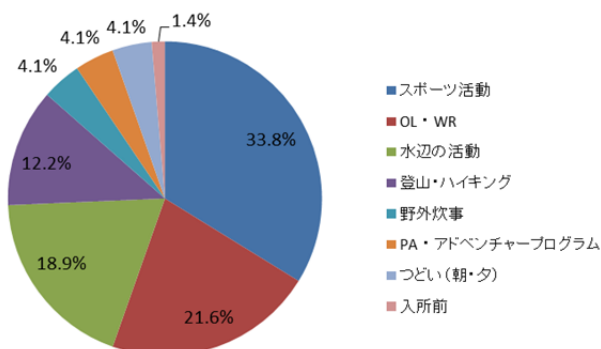


表-43 熱中・脱水

活動内容	件数	割合
スポーツ活動	25	33.8%
OL・WR	16	21.6%
水辺の活動	14	18.9%
登山・ハイキング	9	12.2%
野外炊事	3	4.1%
PA・アドベンチャープログラム	3	4.1%
つどい(朝・夕)	3	4.1%
入所前	1	1.4%
合計	74	-

Ⅱ．事例紹介

【対象年度：平成 28 年度～平成 29 年度】

1．屋内活動での事故

綱引き中の転倒による脳震盪

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（綱引き）

■場 所：体育館

■日 時：平成29年4月21日（金） 11時30分頃

■当 該 者：高校1年生 1名（男子）

■傷病種類：外科系一脳震盪

概 要	高等学校の宿泊研修期間中、体育的研修のプログラムに組み入れた「五色綱引き」を実施した際、対象生徒が綱を引いていて勢いが余り後方に転倒、頭部を強打した。 その後、体育的研修の閉会式を終え、集合写真撮影の最中に吐き気・頭痛がひどくなり、養護教諭が付き添いのもと、宿舎で休養した。 痛み・吐き気が増したことから、救急車を要請、到着後救急隊員の判断ですぐにドクターヘリを要請した。視界不良のため、近隣の小学校グラウンドにヘリの到着場所を変更し、救急車と合流後に医師の診断を受け、ヘリでの救急搬送は見送り救急車で近隣の総合病院へ搬送した。 検査の結果、「脳震盪」との診断。出血・骨折もなく、薬を処方し交流の家へ戻る。 その後、休養を経て経過観察。研修日程を終え帰校した。
原 因	室内研修（五色綱引き）が荒天時プログラムの内容であったこともあり、日中の野外活動プログラムが行えなかったことから、体力的にも十分な余裕があったことが伺える。 また、研修プログラムを事前に把握した際、実施の際の危険について該当校教員への情報が十分でなかったことも要因として考えられる。
改善策	以後、事前にプログラム相談に来所される学校や団体には、「五色綱引き」を含む競技のルールを説明すると共に、危険回避のためのアドバイスを徹底して行った。さらに、足元が滑りやすい環境で怪我等が多く発生することを伝え、競技前に濡れ雑巾で足裏をふくことや裸足などの工夫を促した。
事 後	生徒の疲労度を鑑み、疲労が蓄積している場面では事故につながりやすいことを教諭に説明し、種目の変更や回避を行った。

ベッドからの転落による骨折

■事業分類：研修支援

■活動内容：自由時間

■場 所：宿泊室

■日 時：平成30年3月17日 17時頃

■当 該 者：2歳女児 1名

■傷病種類：外科系－左上腕骨骨折

概 要	高さ約50cm程度のベッドの上から転落。
原 因	①当施設の利用が初めてであったことによる不慣れと不注意。
改善策	①本件事案の直前にも、オリエンテーションにおいて、ベッド転落の注意喚起をしているところであるが、オリエンテーション及び入所手続き時に本件事案を紹介する等、具体的な事例も交えて注意喚起をさらに強化する。 ②未就学児がいる場合には、宿泊室の部屋割りを可能な限り、ベッドの無い布団敷の部屋に配室する。

リンゴによるアナフィラキシーショック

■事業分類：研修支援

■活動内容：自由時間

■場 所：その他（宿泊棟ラウンジ）

■日 時：平成 29 年 12 月 9 日 21 時 15 分

■当 該 者：高校生 2 年生 1 名（女子）

■傷病種類：内科系－リンゴによるアナフィラキシーショック

概 要	りんごアレルギーを持つ生徒が、友人が持ち込んだお菓子をもらい、口に含んだところでアレルギー成分に気づき戻したが、少量が胃まで到達し、アナフィラキシーショックの症状を訴え、夜間救急センターを受診した。受診後、帰所せずに家族の迎えで帰宅した。
原 因	りんごアレルギーがあることは分かっていたが、当該者自身が自分のアレルギー症状の重篤さを理解していなかったことや友人にもらったものを断れなかった可能性もある。
改善策	宿直者と利用団体の代表者による適切な対応により、大事に至らなかった。職員内で、アレルギーやアナフィラキシーショックを理解するための資料を作成し、次のとおり周知を行う。 【利用者への周知】 ・平成 30 年度利用の手引き及び食物アレルギーに関するアンケート（利用日 20 日前に提出）に、アレルギーやアナフィラキシーショックに関する注意喚起等を追記する。 ・健康状態届（入所時に提出）に、アレルギーやアナフィラキシーショックに関する確認事項を追記（薬や治療剤の持参の有無等）する。 【職員への周知】 ・日本アレルギー学会のガイドラインを共有（保健室対応のマニュアルを活用）する。 ・所内の救急法研修にて再確認する。 お菓子の飲食不可は徹底しづらいが、オリエンテーションや飲食を可能としている場所に掲示物を貼るなど検討している。

ベッドからの転落による打撲

■事業分類：教育事業

■活動内容：就寝時間

■場 所：宿泊室

■日 時：平成 29 年 7 月 8 日 19 時 00 分頃

■当 該 者：保護者 1 名（女性）

■傷病種類：外科系－腰付近の打撲

概 要	宿泊棟リーダールームで、就寝準備のために二段ベッド上段に上がろうとしたところ、ハシゴ取り付け部分が破損してハシゴごと転倒し、腰から右足の付け根側部を打撲した。
原 因	リーダールームの二段ベッドのハシゴは可動式で、コの字状金属フックでベッド柵に掛けて設置していた。今回は梯子から金属フックが外れてしまった。
改善策	金属フックの取り付けを補修した。他のリーダールームのベッドについても確認作業をした。
事 後	その後、同様の事故は無し。

痙攣の発症

■事業分類：研修支援

■活動内容：研修・学習・文化活動（学習活動）

■場 所：研修室

■日 時：平成29年10月1日 12時05分

■当 該 者：引率・指導者 1名（男性）

■傷病種類：内科系－痙攣

概 要	昼食前、午後の試験に向けて引率・指導者が打合せをしている最中に突然1人が痙攣し、意思疎通が困難な状況となったため、事務室に連絡が入った。職員1人が状況確認を行い、119番に連絡、その間、職員2人が駆けつけ、意識の確認を行い、横にする。到着した救急車により病院に向かいそのまま、退所した。
原 因	過去にも同じようなことがあったようで、引率のプレッシャー及び寝不足により発症したものであった。
改善策	この度の対応は、このケースのような緊急時を想定して、予めCPR、AED、その他の手当ての訓練を施設として企画・受講していたこと、119番を呼ぶために最低限必要な情報のみを聞き出すためのメモ用紙を常々準備し、すぐに取り出せるようにしていること、その時に必要な対応（119番への連絡、現場に向かう、AEDの準備、状況の書き出し）の認識が職員間ではっきり理解できていることにより素早い対応が可能となり、大事には至らなかったといえる。 改善点としては、この状況を記載する「疾病等状況確認カード」の項目が十分ではなかったため、様式の見直しを行った。
事 後	「疾病等状況確認カード」の内容を見ることで、その時の対応状況がある程度分かるようになった。また、様式統一のための試行の際には、今回の経験を意見として提出した。

移動中の転倒による骨折

■事業分類：研修支援

■活動内容：移動中（入浴後）

■場 所：廊下階段

■日 時：平成29年6月30日 20時30分

■当 該 者：小学6年生（女子） 1名

■傷病種類：外科系－ 右手首骨折

概 要	本館宿泊棟において、湿度が高く廊下が濡れており、上記当該者が転倒し右手首を骨折した。
原 因	雨で湿度が高くなり、本館宿泊棟及び宿泊棟に続く廊下が濡れて滑りやすい状況であった。
改善策	梅雨の湿度が高い時期には、本館宿泊棟及び宿泊棟までの廊下に除湿器及びサーキュレーターを設置し対応した。
事 後	翌日、除湿器及びサーキュレーターを設置したことにより、湿度を抑えたことで滑りやすいという状況を解消した。

宿泊室（窓）からの転落による骨折

■事業分類：研修支援

■活動内容：就寝時間

■場 所：宿泊室

■日 時：平成28年6月18日 22時30分

■当 該 者：小学校4年生 1名（女子）

■傷病種類：外科系：右腕橈骨骨折、左顎下及び口腔内裂傷

概 要	宿泊室で、同室の友人3名（負傷者を含む）でかくれんぼをしていた。窓枠に座り、カーテンを閉めて隠れているときに、誤って網戸に寄りかかったところ、宿泊棟2階から1階へ転落した。
原 因	普段座ってはいけない窓枠に座り、網戸に寄りかかったこと。
改善策	・ 宿泊室の網戸に表示を行った。 「注意 網戸が外れる可能性があります。寄りかからないでください。」 ・ 宿泊室の網戸の点検を日々行っている。 ・ 代表者会議において、情報提供を行っている。
事 後	以後、同様の事故は生じていない。

Ⅱ．事例紹介

【対象年度：平成 28 年度～平成 29 年度】

2．屋外活動での事故

ベンチへの衝突による打撲

■事業分類：研修支援

■活動内容：登山・ハイキング（ナイトハイク）

■場 所：その他（敷地内道路）

■日 時：平成 29 年 6 月 22 日 21 時頃

■当 該 者：小学校 6 年生 男子 1 名

■傷病種類：外科系－左太もも打撲

概 要	ナイトアドベンチャーの活動終了間際、集合場所である玄関に向かって走っていて、暗い中でベンチに気付かず、激突。
原 因	①懐中電灯を使用せず、活動していたこと。 ②活動の導線上に、ベンチが置いてあったこと。
改善策	①必ず照明器具を持ち活動することを徹底。 ②ベンチを、活動導線上から外し、設置。
事 後	以後、同様の事案はない。

スキー中の転倒による骨折

■事業分類：研修支援

■活動内容：スキー等・雪中活動（スキー研修）

■場 所：その他（スキー場）

■日 時：平成30年2月24日 9時30分

■当 該 者：利用団体研修生 1名（女性）

■傷病種類：外科系－左足大腿部骨折

概 要	スキー研修において、リフトから降りて集合する際に、転倒して左腰部分を雪面に強打し動けなくなったため、病院へ救急搬送した。
原 因	停止時に、スキー板のテール部分を回しすぎて1回転し、勢い余って転倒した。
改善策	・スキー指導者に研修生個々の力量を十分に把握した上で、適正な指導を行うように依頼した。 ・集合場所の選択等において、研修生の安全管理を最優先した指導を実施するように依頼した。
事 後	スキー指導者の安全を最優先した指導への意識が高まり、事故の減少につながっていることがうかがえる。

虫刺され（地蜂）

■事業分類：研修支援

■活動内容：登山・ハイキング（トレッキング）

■場 所：ハイキングコース

■日 時：平成29年9月13日 15時頃

■当 該 者：中学2年生 6名（男子・女子）

■傷病種類：外科系－生物系

概 要	トレッキング中、生徒が地蜂と思われる虫に次々と刺された。 帰所後、ポイズンリムーバーにて吸引するもすでに時間が経っており、顔や頭を刺された生徒のみ念のため病院受診をした。
原 因	トレッキングコース内の地面に巣を作っていた地蜂が、歩く振動に驚き攻撃したと思われる。 学校側もはち刺されを想定しておらず救急用品にリムーバーを持ち合わせていなかった。
改善策	トレッキングの打合せ時、リムーバーを持っていない団体には貸し出しできるシステム作りを行った。

窓下の側溝に落ちて挫創

■事業分類：研修支援

■活動内容：移動中（朝のつどい終了後から朝食までの時間帯に、宿泊棟付近で起こった事故）

■場 所：その他（宿泊棟外側の側溝）

■日 時：平成29年6月30日 7時50分

■当 該 者：中学1年生 1名（男子）

■傷病種類：外科系－左膝部挫創

概 要	宿泊室（1 階）の窓の外から部屋の中へ水筒を渡すため、窓の下の側溝の鉄製のふたの上に本人が立ったところ、ふたを支えていた右横のコンクリートが朽ちていたため、側溝に落ち込んだ。その際、左膝下を真横に6cmほど切った。
原 因	側溝はコンクリート製のふたが被せてあるが、本人が立ったところのみ、点検用に開閉できる鉄製になっていた。ふたを支えていた右横のコンクリートが朽ちていたことが原因である。
改善策	該当箇所の鉄のふたは側溝に落ち込まないように修繕した。同じような側溝が当該箇所以外に9か所あるので、危険がないか点検した。
事 後	修繕後、同様の事故は起こっていない。

他者との接触・転倒による剥離骨折と靱帯損傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（アルティメット）

■場 所：グラウンド

■日 時：平成29年9月11日 11時

■当 該 者：大学生 1名（男性21歳）

■傷病種類：外科系－右手親指の剥離骨折と靱帯損傷

概 要	グラウンドでアルティメット競技中にディスクをとろうとした瞬間に、右手親指が他の競技者と接触し、転倒した。痛みは激しくなかったが、念のため受診したところ、剥離骨折と靱帯の損傷と診断された。
原 因	当該者にとって、初めて行う競技であり、所属する団体もアルティメットの運動量や競技中に起こりうる事故などを把握していなかった。
改善策	職員は、利用者に適切な助言ができるよう、当施設を利用して行う競技のルールや各競技の特性上起こりうる事故を調べ、把握に努める。また、利用団体へ対し、事前に十分な準備運動を行い、ルールや競技の特性上起こりうる事故を把握して行うよう助言する。

手足口病の発症

■事業分類：教育事業

■活動内容：その他（野外活動：キャンプ）

■場 所：その他（キャンプ場）

■日 時：平成29年8月1日 6時30分

■当 該 者：小学6年生 1名（男子）

■傷病種類：内科系ー手足口病

概 要	長期キャンプに参加していた小学生男子が、キャンプ3日目に発熱し病院を受診したところ「麻疹の可能性がある」と診断された。感染の可能性を考え医務室にて安静にして様子を見た。翌日も熱が下がらなかったため再度病院を受診したところ、手足口病と診断された。当日、保護者に連絡し帰宅させ、感染のリスクを軽減させた。
原 因	当時、県内で手足口病が流行していたことと、登山により体力が低下していたことが原因と考えられる。
改善策	同キャンプ参加者の感染を防ぐため、手洗い・消毒・うがいを徹底し、疲れを翌日に残さないように睡眠をしっかりとるように指導した。また、宿泊室等の生活スペースの換気やトイレの消毒等を実施し、感染予防に努めた。
事 後	その後、手足口病の感染は広がらなかった。

ナタの誤使用による裂傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：野外炊事

■場 所：キャンプ場

■日 時：平成 29 年 6 月 8 日 14 時 20 分

■当 該 者：小学 5 年生（男子） 1 名

■傷病種類：外科系－左手の甲中指付け根辺りの裂傷

概 要	小学校の宿泊学習で来所していた小学校 5 年生男子児童が、野外炊事の活動中、2 人組で薪にする小木をつくるためにナタで木を割っていた。 当該者がナタを担当し、もう 1 人が割る木の上に垂直に置いたナタの上を、太い木を使って叩いて割ろうとしたところ、なかなか割れなかったため「斜めに切ったらよいと、4 年生の時に図工で習った」ともう 1 人が当該者に伝えた。 当該者が割る木の上にナタを斜めに置いたところ、木がグラグラと揺れたため、ナタを握っていた両手から左手を離して薪を支えた。その左手甲の上に木から滑り落ちたナタの刃があたり、手の甲に裂傷を負った。左手には軍手をはめていなかった。
原 因	当該児童にとって、実演を含めた説明の情報量が多く、「木に節があり割りにくい時は、無理に割らずに別の木にすること」、「ナタを握る時は、利き手は滑らないように素手で、反対の手は手を守る軍手をしてナタを両手で握ること」の 2 点について強く意識させることができていなかったと思われる。
改善策	① 当所で軍手より厚い皮手袋を準備し、薪割りの時にナタを持つ時には、「利き手側でない手に必ず皮手袋をはめること」を強く指導するようにした。 ② 皮手により、より手を保護させると同時に危険な作業をしていることを強く意識させるようにした。 ③ 薪割りの指導時には、実演と共に、新たに作成した手順やポイントを写真で説明したパネルを薪割りの場に掲示するようにした。
事 後	改善策を実施した結果、現在まで薪割りによる事故は発生していない。

危険物への衝突による裂傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：OL・WR（オリエンテーリング）

■場 所：その他（グラウンド脇斜面）

■日 時：平成29年4月2日 午前11時頃

■当 該 者：小学校6年生 男子1名

■傷病種類：外科系－ 裂傷（切り傷）

概 要	オリエンテーリング時に次のポイントに急ぐあまり、コースではない、グラウンドの斜面（崩れ防止のため、コンクリートで固めてある部分）を駆け下りた際、飛び出していたクギにひっかけて左膝を裂傷する。
原 因	立ち入ってはならない斜面に立ち入り、安全を確認しないで駆け下りたため。
改善策	斜面に入れないように、黄色と黒の危険表示をしたロープにて、立ち入り禁止表示を行った。
事 後	それ以降、同様の事故は起きていない。

浴室屋上からの転落による擦過傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（草スキー）

■場 所：その他（浴室屋上）

■日 時：平成 29 年 11 月 13 日 12 時 50 分

■当 該 者：小学 4 年生 1 名（男子）

■傷病種類：外科系ー 擦過傷

概 要	草スキーの活動中、4 年生 4 名が引率者と離れ、掲揚台横から連絡通路屋上を通り中浴室屋上へ渡った。うち受傷者が浴場天窓に立ち、2 回跳んで 2 回目の着地の際に窓が割れ、そのまま 5m 下の中浴場脱衣場に転落した。
原 因	利用者が立ち入らないように掲揚台横には柵を設けているが、子供が柵をすり抜けて入り、中浴場天窓で飛び跳ねたため。
改善策	連絡通路及び管理棟等の屋上へ、どの位置からも立ち入らないよう掲示を行う。また、浴場天窓も危険である旨の掲示を行う。

虫刺され（ダニ）

■事業分類：研修支援

■活動内容：登山・ハイキング（登山）

■場 所：登山道

■日 時：平成28年5月28日 17時40分頃

■当 該 者：大学1年生 1名（女子）

■傷病種類：外科系－虫刺され（ダニ）

概 要	入浴時、右下腹部にダニが体に噛みついたまま残っているのを発見した。日中に登山活動をしていたため、活動中にダニに刺されたと考えられる。 アルコール綿を当て、ダニが除去できるか試みたが、除去できなかったため、翌日、病院を受診することとなった。
原 因	活動中の服装（長袖、長ズボン）や、活動後の確認（衣服を払ってダニを落とす等）について指導が十分ではなかった。
改善策	屋外での活動が多く行われる6～9月は、館内掲示物、入所オリエンテーション等でダニの注意喚起を徹底するとともに、受付時に団体の代表者へ事例を用いて紹介することとした。 今後は、事前打合せにおいても注意喚起を行うこととし、職員もダニに対する理解を深めるための研修を行い、適切な処置ができるようにする。

Ⅲ. 資料

Ⅲ.資料 平成29年度 傷病発生状況一覧表

(1) 日帰り利用 傷病一覧

日帰り利用(人)	外傷系										内科系										合計
	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	粘着系	総計打撲	生物系	咬傷指	骨折	筋肉疲労	肩こり	腰痛	頭痛	眩暈・めまい	下痢	嘔吐	呼吸器系	アレルギー	
入所前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食事時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修・学習・文化活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラブ活動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ・レクリエーション・運動・遊び・ゲーム・イベント・その他(上記以外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由時間	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・確認入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
屋内合計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食事時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
研修・学習・文化活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
クラブ活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ・レクリエーション・運動・遊び・ゲーム・イベント・その他(上記以外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所後	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
移動中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由時間	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他(上記以外)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・確認入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
屋外合計	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Ⅲ.資料 平成29年度 傷病発生状況一覧表

(2) 宿泊利用 傷病一覧

宿泊利用(人)		外科系															内科系															合計					
		擦傷	切り傷	どげ	皮膚科系	鼻血	火傷	関節系	捻打打撲	生物系	突発性	骨折	低体温部	脱臼	眼科系	上記以外の の傷み	その他	感冒	頭痛	感染症	腰痛	脱臼	肩甲骨部	嘔吐	平均時間	体調不良	熱中・脱水	下痢	吐き気	喘息	呼吸器の 著作			生肌薬	アレルギー	循環器病	精神疾患
屋内	入所前	1	1	0	1	1	0	1	3	0	0	0	2	0	0	0	1	33	16	11	11	33	7	1	10	1	0	1	2	0	3	3	0	0	4	147	
	食事時間	1	1	0	0	2	2	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	29	22	2	32	0	51	2	22	1	1	14	2	0	1	3	0	0	2	194	
	入浴時間	3	7	0	0	1	1	0	8	1	1	1	0	0	0	0	0	7	3	1	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	2	0	1	42	
	就寝時間	2	4	0	2	4	1	0	8	6	1	2	2	0	3	2	2	76	26	10	18	0	24	2	22	4	1	11	6	3	4	2	1	0	1	2	252
	研修・学習・文化活動	0	6	2	0	4	1	0	26	4	1	2	0	0	2	5	1	99	73	12	39	0	16	14	60	7	0	10	1	11	11	0	2	2	5	8	424
	クラブ活動	1	2	4	1	1	4	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	5	4	0	1	0	1	0	4	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	34
	スノーボード・スキー・アイスホッケー・アイスバレー・アイスフットボール・アイスバレー・アイスフットボール	6	8	0	4	2	1	5	71	5	11	11	4	0	3	7	5	33	27	9	12	0	9	4	22	10	0	8	3	6	2	1	1	0	5	5	300
	屋内・キャンパファイヤー・キャンパ・ドール・サー・ビス	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	11
	オリエンテーリング・ウォークラリー	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	PA・アドベンチャー・プログラム	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
つどい(朝・夕)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8	
屋外	移動中	2	2	1	1	1	0	1	19	2	1	1	0	0	0	0	5	9	11	5	10	2	5	0	21	0	0	4	0	2	1	0	0	0	10	0	116
	自由時間	3	15	2	2	0	0	0	19	3	0	6	0	1	1	3	1	91	32	9	25	0	17	2	29	5	2	12	3	4	2	2	1	0	0	9	301
	その他(上記以外)	3	4	0	3	0	1	0	5	2	0	0	0	1	2	0	2	30	22	5	10	1	6	1	22	2	0	2	2	1	3	0	0	0	1	2	133
	不明・無記入	3	3	1	2	1	0	1	4	2	1	0	0	0	2	1	1	40	20	6	12	1	5	0	14	0	1	1	2	1	3	1	0	0	2	3	134
	屋外合計	25	53	10	16	17	11	8	171	28	16	25	8	3	13	19	18	461	256	72	171	37	142	27	232	32	5	65	23	28	30	13	5	6	24	36	2106
	入所前	1	4	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	5	6	2	1	5	1	1	5	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	39	
	登山・ハイキング	10	2	0	1	2	0	0	30	37	0	3	2	1	1	4	2	14	9	0	2	1	3	2	14	9	0	3	2	1	0	2	1	0	3	0	161
	キャンパファイヤー	0	1	0	0	1	5	0	1	4	0	0	0	0	0	2	0	5	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
	野外炊事	3	21	1	1	1	43	0	6	29	0	1	0	1	4	0	1	9	8	0	6	0	7	3	12	3	0	3	1	1	0	0	1	2	1	3	172
	PA・アドベンチャー・プログラム・スノーボード・スキー・アイスホッケー・アイスバレー・アイスフットボール・アイスバレー・アイスフットボール	0	0	2	0	0	0	1	2	5	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	23	
水辺の活動(釣り・水辺の活動)	11	7	1	3	1	0	0	30	20	0	2	4	1	2	1	6	17	8	1	13	0	3	3	10	24	0	0	1	7	1	2	1	0	0	2	182	
つどい(朝・夕)	5	3	0	0	0	0	0	3	18	0	1	0	0	0	0	0	1	9	7	0	2	0	5	8	15	3	0	4	2	0	0	1	0	1	0	88	
スキー等・雪中活動	2	4	0	0	0	0	5	29	0	0	4	0	0	2	1	1	18	8	6	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	84	
水辺の活動(釣り・水辺の活動)	1	3	0	0	0	0	0	11	10	0	2	1	0	2	0	0	12	9	0	4	2	5	2	14	14	0	2	0	1	0	0	1	0	0	1	97	
オリエンテーリング・ウォークラリー	5	1	2	4	2	0	0	28	27	0	1	0	0	3	2	0	14	23	0	5	0	1	1	18	16	0	1	2	4	2	0	0	0	0	162		
移動中	7	3	1	3	0	0	1	10	6	0	3	1	0	0	0	2	4	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	50	
自由時間	4	3	0	0	1	0	0	6	23	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	
その他(上記以外)	2	5	1	3	2	2	0	10	11	0	1	0	0	0	2	0	3	9	1	1	0	1	1	4	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	62	
不明・無記入	1	0	0	2	0	0	0	2	13	0	0	0	0	1	0	1	4	2	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	
屋外合計		52	57	8	16	10	50	7	170	203	0	20	8	3	18	10	16	115	93	11	39	9	28	22	100	75	0	19	8	16	6	5	5	3	4	6	1214
合計		77	110	18	34	27	61	15	341	231	16	45	16	6	31	29	34	576	349	83	210	46	170	48	332	107	5	84	31	44	36	18	10	8	28	42	3320

事故データ集

平成 30 年 6 月

独立行政法人国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号

T E L 03-6407-7715、7723、7686、7687

F A X 03-6407-7699

H P <http://www.niye.go.jp/>